

評価結果公表票

作成日 平成22年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0270600570
法人名	有限会社 とわだサンライフ企画
事業所名	沢田のグループホーム和っふる
所在地	十和田市大字沢田字田屋10-4 (電話) 0176-73-2020
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年1月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.4人

(2)建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要( 10月1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 78 歳	最高 88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	十和田第一病院、佐々木歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームが農協の跡地に隣接することなどから、住民が気軽に立ち寄れる、馴染みの場所となっている。利用者は全て女性であり、調理の手伝いや編み物などを自由に楽しんでいる。また、ホーム内には利用者の手作り品が多く飾られ、家庭的な雰囲気となっている。

『一人ひとりにあった「今」望む介護を提供し、健康と生命の維持に努めます。』を基本理念に、「和っふるは、地域と共にひとつの輪をめざします。」を夢に掲げ、全職員がその実現に向けて日々のケアを提供している。

年間研修計画を作成しており、勤務体制に配慮した上で、職員個々の力量等に応じた研修に派遣し、資質向上につなげている。受講後は復命書を作成して全職員に報告し、内容を共有している。

かかりつけ医や家族が希望する医療機関への受診を支援している。また、医療機関との連携により、相談や緊急時に対応できる体制となっている。受診結果は、面会時や電話等で家族に報告し、共有している。

【特に改善が求められる点】

昼夜を想定した避難訓練を実施するなどの取り組みを行っているが、災害時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。

住民から貰った野菜を献立に取り入れたり、利用者一人ひとりの体調に合わせて調理するなどの工夫を行っているが、保健所や医療機関の協力を得るなど、栄養士等から定期的に栄養面に関する助言を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を基に改善策について話し合い、運営推進会議に行政職員の参加を依頼するなど、ケアサービスの質の向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を始め全職員が評価のねらいや意義を理解しており、評価を通じて日々のケアの振り返りを行い、職員の資質向上、ホーム全体の質の向上に役立っている。自己評価は、管理者が中心となり、全職員の意見を引き出し、話し合いながら作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催し、町内会長や行政職員、青年団代表等が参加している。委員の出席率は75%となっており、自己・外部評価の結果やホームの取組みを報告し、委員から意見や要望を出してもらっている。会議で出された意見は、今後のケアサービスの向上に反映させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>広報誌や面会時等を利用し、暮らしぶりや受診状況、金銭管理状況等を家族に報告している。</p> <p>運営推進会議や面会時、家族交流会等、家族が意見を話せる機会を設けるほか、ホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、苦情受付箱を設置するなどの取組みも行っている。家族から要望等が出された時は、今後の対応と課題について話し合うなど、より良いホーム運営につなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者を始め職員、利用者が地元住民ということもあり、散歩の際に住民が声をかけてくれたり、利用者の知人が面会に来るなど、気軽に立ち寄れる場所となっている。また、祭りや老人クラブの集まり等に積極的に参加するほか、中高生との交流も図っており、地域に開かれたホームである。職員が町内や地域に出向いて認知症予防活動に参加するなど、ホームの機能を地域に還元している。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。</p>

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念が実践されているかをミーティングで話し合っており、いつでも社会の一人であり、地域と一体になることを目指している。</p> <p>内部・外部研修を通して、虐待防止について共有を図っている。また、管理者は職員の日々のケアを観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。</p> <p>職員の慣れが生じないように、2年に1回は最小限の規模で担当職員を交替している。交替する時は、利用者の状態を考慮して時期を決めたり、利用者に見解を聞いて納得した上で行うなどの配慮を行っている。また、毎日のミーティング等を通して、職員間での引き継ぎを詳細に行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>ホームの雰囲気を感じてもらうため、契約前には利用者や家族に見学を促している。また、繰り返し面談を行い、利用者や家族との信頼関係を築くと共に、利用開始に向けた調整を行っている。</p> <p>衣食住を共にすることで、一人ひとりの喜怒哀楽の理解につなげている。また、生活文化の大切さや工夫など、利用者から学ぶ機会が多く、利用者職員が支え合って暮らしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々の会話や言動から、一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、職員の気づきや家族の要望等も介護計画作成時に反映させている。</p> <p>准看護師の資格を持った職員を配置し、利用者の健康管理に努めている。重度化や終末期のケアには対応していないが、日常的な健康管理や急変時の対応について、家族や医療機関との話し合いを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動には、それぞれ意味があることを理解した上で対応している。また、介助時には大声で声がけしないなど、羞恥心に配慮し、利用者を人生の先輩として尊重し、敬いの気持ちを持って接している。</p> <p>天気の良い日には散歩に出かけたり、利用者の希望や季節感を取り入れた外出支援を行っている。外出時には、利用者の身体状況などに配慮して場所を設定している。</p> <p>週2回の入浴となっているが、時間帯や入浴方法は利用者の希望に応じている。長時間の入浴を好む方には健康に留意し、短時間の入浴を好む方には室内の温度調整を行うなどの支援を行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。『一人ひとりにあった「今」望む介護を提供し、健康と生命の維持に努めます。』を基本理念に掲げ、「和つふるは、地域と共にひとつの輪をめざします。」を夢としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和し、共有を図っている。日々のケアで理念が実践されているかをミーティング時に話し合っており、いつでも社会の一人であり、地域になじんで生活していくことを目指している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者を始め職員、利用者が地元住民ということもあり、散歩の際は住民が声をかけてくれたり、利用者の知人が面会に来るなど、気軽に立ち寄れる場所となっている。また、祭りや老人クラブの集まり等に積極的に参加するほか、中高生との交流も図っており、地域に開かれたホームである。職員が町内や地域に出向いて認知症予防活動に参加するなど、ホームの機能を地域に還元している。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者を始め管理者、職員が評価のねらいや意義を理解しており、評価を通じて日々のケアの振り返りを行い、職員の資質向上、ホーム全体の質の向上に役立っている。自己評価は、管理者が中心となり、全職員の意見を引き出し、話し合いながら作成している。また、外部評価の結果を基に改善策について話し合い、実践につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、町内会長や青年団代表、家族、行政職員等が参加している。会議ではホームの取り組みや自己・外部評価の結果等を報告し、今後の運営や改善策等に関する意見を出してもらっている。会議で出された意見は、今後のケアサービスの向上に反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎戸配布している広報誌や便りを担当者に届けるほか、自己・外部評価の結果も報告し、現状を伝えている。また、困難事例等について担当窓口に相談する等、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、外部講師を招くなどの取り組みにより、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めている。現在、日常生活自立支援事業を利用している方がいるほか、家族交流会や面会時を通じて制度に関する情報提供を行うなど、利用に向けて支援する体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して、虐待防止について共有を図っている。また、管理者は職員の日々のケアを観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合は、代表者や管理者に報告し、その後、職員会議で話し合うこととなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書を基に説明し、利用者や家族の不安な表情や言動が見られた時は、一つひとつ丁寧に説明している。契約改訂時や退居時にも丁寧に説明しており、退居時には退居先への情報提供等を行い、利用者や家族の不安を取り除くよう努めている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりなどを掲載した広報誌を定期的に発行している。また、受診結果や職員の異動については、その都度報告している。金銭管理状況は個々の出納帳に記録し、領収書を添えて家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、家族交流会開催時等、家族が意見を話せる機会を設けている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、苦情受付箱を設置するなどの取り組みも行っている。意見や要望が出された時は、今後の対応と課題について話し合うなど、より良いホーム運営につなげている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の慣れが生じないよう、2年に1回は最小限の規模で担当職員を交代している。交代する時は、利用者の状態を考慮して時期を決めたり、利用者意見や意見を聞いて納得した上で行うなど、配慮している。また、毎日のミーティング等を通して、職員間での引き継ぎを詳細に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成しており、勤務体制に配慮した上で、個々の力量に合った研修に職員を派遣している。また、専門誌や他事業者からの情報を基に、内部研修も実施している。受講後は復命書を作成し、全職員に内容を報告している。業務上の悩みは姉妹施設に相談し、アドバイスを得ている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入し、同業者との交流を深めている。また、研修やレクリエーションなどを他施設と合同で企画するなど、職員の資質向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気をつかんでもらうため、契約前には利用者や家族に見学を促している。また、繰り返し面談を行い、利用者や家族との信頼関係を築くと共に、利用開始に向けた調整を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	衣食住を共にすることで、一人ひとりの喜怒哀楽の理解につなげている。また、生活文化の大切さや工夫など、利用者から学ぶ機会が多く、利用者と職員が支え合って暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や言動から、一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、職員間で話し合ったり、家族等から情報収集するなどの取り組みも行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の意向や希望、職員の気づき、家族の要望等を反映させている。利用者ができること、少し頑張ればできることを把握した上で計画を作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、利用者の状態に応じて2週間、1ヶ月、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、常に観察や見守りを行っており、利用者の状態や家族の要望の変化があった時には、随時見直している。見直し時には再アセスメントを行っており、実状に即した計画となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	准看護師の資格を持った職員を配置し、利用者の健康管理に努めている。また、利用者の希望に応じて外出や受診を支援したり、地域からの要望で介護教室を開催するなどの取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の聞き取り等を通して、これまでの受診状況を把握しており、かかりつけ医や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関やかかりつけ医との連携を図り、相談や緊急時にも対応できる体制となっている。受診結果は、面会時や電話等で家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日常的な健康管理や急変時の対応について、家族や医療機関との話し合いが行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動には、それぞれ意味があることを理解した上で対応している。また、介助時には大声で声がけしないなど、羞恥心に配慮し、利用者を人生の先輩として尊重し、敬いの気持ちを持って接している。職員は、研修等を通じて個人情報保護法を理解しており、個人に関する記録簿の背表紙には花の名前を記載するなど、きめ細やかな配慮が行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動作や会話の速さの違いを理解し、言動を急かすことなく接している。また、個々のペースやその日の希望等に応じた支援を心がけている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握しており、苦手な食材は形を変えたり、好きな食事を提供するほか、見た目にも配慮した盛り付けとなっている。また、住民からもらった旬の野菜を献立に取り入れる等の取り組みも行っている。利用者の状態に応じて食事の下準備や配膳などを手伝ってもらったり、会話を楽しみながら職員も一緒に食事を摂る等、和やかな雰囲気となるよう配慮している。食事中、職員は利用者の食の進み具合を確認し、必要に応じてサポートしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、時間帯や入浴方法は利用者の希望に応じている。長時間の入浴を好む方には健康に留意し、短時間の入浴を好む方には室内の温度調整を行うなどの支援を行っている。また、一人ずつ入浴するなど、羞恥心に配慮している。入浴を拒否する方には無理強いせず、状況を確認しながら促す等の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時等に生活歴を確認したり、普段のかかわりを通して希望を聞くなどの取り組みを行っている。利用者には自信を持ってもらえるよう、玄関の花の手入れや周辺の草取りなど、個々の力量に応じた役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけて住民と話をしたり、町内の行事や小学・高校の行事に参加するなど、気分転換につなげている。また、利用者の希望や季節感を取り入れた外出支援も行っている。外出時は、利用者の身体状況などに配慮して場所を設定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束について理解を深めており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、期間や理由、方法、経過観察等を記録すると共に、家族に説明して同意を得る体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠していない。ホームが幹線道路に面しており、交通事故の危険が予測されるため、外出傾向を察知できるよう、玄関ドアにセンサーを取り付けている。利用者の言動を観察し、外出傾向を察知した時は、身支度を手伝い、一緒に出かけている。また、無断外出時に備えて、地域の方に協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難誘導策を作成し、定期的にご利用者も一緒に避難訓練を実施している。また、年1回は消防署の協力を得て訓練している。緊急連絡の訓練を行ったが、居室に避難経路を張るなどの取り組みも行っているが、災害時に備えた食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を把握し、記録している。また、その日の気温や利用者の行動量に応じて、提供する水分量を調整している。栄養バランスに配慮して献立を作成しているが、栄養士等の専門家から助言を得る体制は整備されていない。	○	保健所や医療機関の協力を得るなど、栄養士等から定期的に献立に関する助言を得る体制を整えることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防・早期発見・早期対策に関するマニュアルを整備しており、行政窓口や保健所から新しい情報を得た時などは見直している。また、研修会への参加やマニュアルの確認などにより、職員は感染症に関する理解を深め、予防や対策に努めている。面会時には手洗いの協力を呼びかけたり、近況の感染症情報を提供するなど、家族への周知も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳敷きの小上がりがあり、時期に応じてこたつを置くなどの工夫を行っている。また、職員の立てる物音やテレビ等の音量、室内の明るさは適切であり、居心地の良い空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を目にしたり、触れることで、利用者が安心できることを家族に伝え、居室への愛用品の持ち込みを呼びかけている。使い慣れた小物や小タンスが持ち込まれているほか、居室入口に利用者が制作した表札とのれんを掛けたり、好みに合わせて家具を配置するなど、一人ひとりにとって過ごしやすい空間となるよう配慮している。		

※   は、重点項目。